

## 令和4年度大船渡市社会教育委員定例会議

日時 令和5年3月17日(金) 午後1時30分～午後2時45分  
場所 大船渡市役所 地階大会議室  
出席者 運営委員会委員 10名  
伊藤英子委員、志田秀香委員、鈴木直樹委員、金野律夫委員、  
及川久美子委員、熊谷君子委員、佐々木好子委員、三浦素子委員、  
渡辺信子委員、佐々木哲委員  
大船渡市 9名  
協働まちづくり部長  
生涯学習課：生涯学習課長、主任、主事、生涯学習推進員  
市民文化会館：館長  
中央公民館：館長補佐  
教育総務課：係長  
博物館：館長補佐

[会議内容]

### 1 開 会

2 挨拶 協働まちづくり部長

### 3 社会教育委員の紹介

### 4 議長及び副議長の選任

大船渡市社会教育委員会議運営規則第6条の規定により、議長及び副議長は互選によることとされているため、選任方法を諮ったところ、事務局案を求められた。

事務局案として、議長に伊藤英子委員、副議長に三浦素子委員として選任することを提案したところ、異議なく承認された。

### 5 報 告

報告第1号 令和4年度生涯学習事業の実施状況について  
事務局より、別紙資料のとおり説明し、意見等を伺った。

〈意見・質疑応答〉

#### 【施策4 地域の歴史・文化資源の継承について】

・(佐々木哲委員)

「こども郷土芸能まつり」について、詳細が知りたい。学校では、郷土芸能について、なかなか発表の場が作れない状況である。

→(教育総務課)

「こども芸能まつり」については、コロナ禍でしばらく開催できていないが、それまでは隔年で開催されていた。大船渡市内の郷土芸能の保存会に所属する高校生までの子どもたちが出演しており、後継者育成や活動の場を提供するといった趣旨の行事である。

## 6 協 議

議案第 1 号 令和 5 年度大船渡市社会教育関係団体への補助金交付について  
事務局より、別紙資料のとおり説明し、意見等を伺った。

### 〈意見・質疑応答〉

・(熊谷委員)

令和 5 年度の補助金額は、令和 4 年度と比較して増減はあるのか。どこかの事業に力を入れて増額になった等があれば教えてほしい。

→(生涯学習課長)

「地域社会教育振興事業費補助金」「社会教育団体等育成補助金」「大船渡市芸術文化協会育成費補助金」「大船渡市郷土芸能協会育成費補助金」は、令和 4 年度と同額。

「地域公民館整備事業費補助金」については、令和 4 年度の当初計画よりも 500 万円減額している。当補助金は、地域公民館が建て替えや修繕する際に交付するものである。現時点で令和 5 年度の建て替えの要望はないため、修繕の見込みとして 150 万円計上した。

・(鈴木委員)

熊谷委員の質問に関連して、人口減少や少子高齢化といった問題がある中、社会教育に関する財源の見通しはあるのか。今後、財源が減った場合、どこかに重点を置いて交付することになると思うので、伺いたい。

→(生涯学習課長)

鈴木委員の意見については、市としても今後の課題として捉えている。将来的には、そういったことも踏まえて補助金の支出について検討する必要がある。

議案第 2 号 令和 5 年度生涯学習事業計画(案)について  
事務局より、別紙資料のとおり説明し、意見等を伺った。

### 〈意見・質疑応答〉

#### 【施策 1 学校教育の充実について】

・(鈴木委員)

元学校関係者としては、スクールガードの人材確保のため、待遇の改善が必要だと考える。事業継続のため、もう少し参加しやすいシステムを考えてほしい。

→(生涯学習課長)

今後、学校運営協議会とも連携しながら検討する。

#### 【施策 2 生涯学習の推進について】

・(鈴木委員)

令和 4 年度の「施策 2 生涯学習の推進」の総括では、「主体的に学習に取り組む市民の割合が低い」となっており、成果指標の「日頃、何らかの学習活動に取り組んでいる」と答えた市民の割合も 13.7%である。令和 5 年度、この課題を解決するための計画はあるのか。

→(生涯学習課長)

令和 5 年度において、特に中央公民館事業では、参加の割合が低い働き手世代が参加

しやすく、興味を持つ講座について、これから検討していくこととしている。

・(鈴木委員)

働き手世代をいかに社会教育に参加させるかが課題だと考えている。例えば、教育講演会では、ビッグネームでないと若い人は参加しない。しかしながら、ビッグネームを呼ぶには予算が必要。気仙2市1町の合同開催で、会場は持ち回りにするなどのやり方もある。新しい講座の開設だけでなく、合同開催で予算を集め、働き手世代も参加できるような取組があってもよいと感じた。

→(生涯学習課長)

中央公民館、生涯学習課では、庁内各課等との連携を深めながら、様々な講座について情報収集しているところである。その中で、鈴木委員の意見も参考にさせていただきたい。

## 7 その他

・(市民文化会館長)

リアスホールと図書館に関して、市広報紙でも周知しているが、冷暖房設備の更新のため、4～6月の間全館休館となる。

移動図書館車「かもしか号」は通常どおり市内全域を運行する。新刊図書を購入し、月1、2回程度、リアスホールのエントランス付近で貸出業務を行う。

・(協働まちづくり部長)

補助金の関係で、「選択と集中」的な話を頂戴したが、今年度から行政経営方針を整え、施策・事業の選択と重点化に向けた動きを強めようとしている。厳しい財政難が背景にあり、人口減少等を踏まえた上での動きである。重点分野については、水産、協働まちづくり、子ども子育て関係等、複数の分野を定め、公表している。重点化を図る動きは、これからますます強まっていく。

成果指標のパーセンテージについては、伸び悩んでいるものがあるが、令和3年度までは新型コロナウイルス感染症の影響で、なかなか活動ができなかったことが響いているものと認識している。

最後に、各種の講演会等々の関係だが、今後強く意識しなくてはならないのは「デジタル化」という概念である。集って講座、講習会をするのも大切な動きだが、全国的に、地方も含めて、「デジタル化」を進める流れが大変強くある。

当市の取組で、明治大学との連携で市民講座をオンラインで開催し、非常に好評を博した。幅広い年齢層が受講し、幅が広がったという実績、実例がある。「デジタル化」という概念も大切にしながら、より実践的なものを追い求めていかなければならない。

このような時代の変化、時代の要請、市民ニーズの変化に敏感に反応しながら、色々な事業を進めて参りたいので、一層のご支援、ご協力をお願いする。

## 8 閉 会